

## 会 議 録

<b>会 議 名</b> (付属機関名等)		第2回 川西市中央北地区交通部会
<b>事 務 局 (担当課)</b>		中央北整備部 中央北推進室 地区整備課
<b>開 催 日 時</b>		平成26年10月2日 17時00分～
<b>開 催 場 所</b>		川西市役所 4階庁議室
<b>出 席 者</b>	<b>委 員</b>	松村、藤本、松浦、岡田、 雪岡、大屋敷、河合、大田、蟹井、酒本
	<b>そ の 他</b>	中根
	<b>事 務 局</b>	津賀、北野、寺島、半田、藤田 戸知谷、横木(コンサルタント)
<b>傍聴の可否</b> 傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由		可   <b>傍聴者数</b>   0人
<b>会 議 次 第</b>		1 開会あいさつ 2 出席者紹介 3 前回のふりかえり <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span> 4 議事 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span> 川西能勢口駅周辺の交通手段・交通施設の現状と課題 交通部会における取り組み案 5 閉会あいさつ
<b>会 議 結 果</b>		別紙審議経過のとおり

## 審 議 経 過

### 1. 開会あいさつ

中央北整備部中央北推進部 酒本部長あいさつ

- ・ 皆さん、こんにちは。酒本でございます。第2回交通部会ということで、第1回は昨年度末に開催させていただいたわけですが、この交通部会の位置づけですが、改めて新しい方もおられますので説明します。川西低炭素まちづくり計画を平成22年に新しくできたエコまち法という法律に基づいて自治体が作成し平成24年度に着手しております。エコまち協議会で策定を進めてきて、その次の年、去年は同じくエコまち協議会でまちづくり計画運用基準を作ってきました。今年エコまち協議会でまちづくり計画の範囲を中央北の22.3haから、中心市街地活性化基本計画の80haまで拡大をするということの取り組みを行ってまいります。
- ・ そのエコまち協議会とこの交通部会の関係ですが、エコまち協議会というのは低炭素まちづくり計画を作ることから始まって、その運用に至るまで、今後進めてまいります。そのエコまち計画の中に、建築物の分野、エネルギーの分野、緑の分野など5つの分野があって、そのうちの1つに交通分野があります。この交通分野というのは平たく言えば今モータリゼーションが発展している中で、将来、バス、電車を使って移動してくださいということなのですが、一足飛びにそんなことができるわけがない。それともう1つは、中央北地区に訪れてこられるのは、公共交通を考えた場合に中央北地区だけで解決する問題ではないということで、公共交通の利用促進を考える上でとりあえず中央北の範囲では狭すぎるので、中心市街地活性化基本計画の区域まで一旦計画を広げましょう。それを前提にこの交通部会で公共交通利用促進を将来的にしていくためにはどういうことに取り組んでいったらいいのかということを検討し始めましょう、そういう位置づけでございます。
- ・ 詳しくは今日の議題に上がってきますが、一足飛びに今車で来ている人たちをバス、電車で来るようにすることは無理だと思っています。とりあえず今車で来ていて川西能勢口駅までどうなっているかということ、川西の駐車場に入るためには渋滞を起こしてしまっている。要はその交通が集中してしまっているという状況があります。ところが中心市街地活性化基本計画の区域内、すなわち川西能勢口駅周辺には民間の駐車場を含めて駐車場が点在していて、約2000台のキャパがあります。そのキャパは車のキャパと比べると十分飲み込めるキャパを既に持っています。車で来るのをやめるのは、いきなりは無理かもしれませんが、渋滞するのであれば、まずフリッジ駐車場に止めてもらって、そして歩くか自転車、そういう面的なまちづくりに一度チャレンジしてみようということで構想を進めようとしています。
- ・ 始まったばかりなので、いろいろな立場からご意見があると思いますが、そういう忌憚のないご意見の中から、2つの方針をしっかりと見据えつつ、中央北地区の公園やせせらぎ遊歩道ができるのが平成28年度末を目指しているの、施設ができた後、何らかの社会実験ができないか、あるいは施設を作りながらでも、啓発の意味も兼ねて社会実験等を出来ないかということも検討していきたいと考えています。なので、今年度からは、行政からは中心市街地活性化基本計画、これは今、次の計画に向けて策定をし直している最中で、その担当部局の職員にも参画を願っ

ておりますし、松村先生にはちょっと遠いところからと言わなければいけなくなってしまったのですが、引き続きお願いをしております。そういう意味で、よりよい未来のまちづくりと言ったらしいのですが、JRさん、能勢電鉄さん、阪急さん、バスさん、電力会社さん等、それぞれの立場から、どうすればうまくいくのかということをし少し中期的な長い目で結構ですので、ご意見をいただきたいと思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

## 2.出席者紹介

## 3.前回の振り返り

事務局

- ・説明（資料1）

## 4.議事

### 川西能勢口駅周辺の交通手段・交通施設の現状と課題

事務局

- ・資料説明（資料2）

委員

- ・何かご質問等がございましたらお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

委員

- ・資料2の1ページ、駅端末交通手段トリップ数の表がありますが、能勢電鉄が入っていないのですが、これは川西能勢口駅に能勢電鉄で来る人というのはカウントされていないのですか。

委員

- ・2つの駅を足した。

委員

- ・足して、この交通手段で来るということですか。

委員

- ・鉄道に関してはすべて入れています。能勢電鉄で能勢口へ見えた方についてもこのトリップ数には入っています。

委員

- ・この表は？

委員

- ・この表は、各交通手段でこの駅を使われた方のトリップ数の集計になっています。ですから、阪急さん、JRさん、能勢電鉄さんを使われて、この2つの駅を使われたトリップ数の集計合計です。

委員

- ・ということは、文章表現で「概ね5割が徒歩」ということは、5割が電車と徒歩という理解ですか。

委員

- ・いえ、徒歩で駅まで来ている、もしくは駅から目的地まで行っているというものです。鉄道を使われる方が駅までどのような交通手段で来ているかということです。ですから、能勢電鉄で川西能勢口駅へ来た方については鉄道ですので、その分は入っていないということです。

委員

- ・そういうことですね。

委員

- ・2ページで、「詳細地域における把握が必要と考えます」と書いてありますが、詳細地域のことが把握できるとどんないいことがあるのですか。

事務局

- ・今の話だと、駅に来る人だけの話しかないので、今の計画だと川西の中で、例えば中央北地区から北部市街地へ移動している方がどのような手段で移動しているかとか、いわゆる市内の移動の特性が把握できます。

委員

- ・特性が把握できるとどんないいことがあるのですか。

事務局

- ・市内の移動が、例えばどのような移動が自動車の量が多くて、公共交通が少ないとか、どこにターゲットを絞って公共交通の促進を図っていくのか、そういった方向性が見えるのではないかと考えています。

委員

- ・地区別のアクセスの交通戦略が立てられるという話ですね？ この地区の人たちの交通分担率は、自動車はこれだけ下げましょうとか、これだけ台数を減らしましょうとか、そういう話ができるということですね？

事務局

- ・はい。どのような施策によって、このトリップ数をどのくらい低減させていくのかという目標が、施策ができるのではないかと考えています。

委員

- ・一番最初に申し上げたとおり、何をするのかというのが一番大切だと思っています。施策として何をするのか。最初の部長の話にあったようなフリンジパーキングを活用するような話もあれば、4番目に出てくるような駐輪場の活用の話もあればということだと思のですが、それと同時に、何台減らせばいいのかという話ですね。何台というか、車の全体のボリュームでこの中心市街地というか、中央北地区を目指してやってくるような人たちの車の台数をどのくらい減らしたらよしとするのか。状況がそんなにひどい状況にはならないだろうというような目標もある程度持っていないと、施策の積み上げだけでこれをやった、あれをやった、だから減らすというのでは恐らく厳しいので、これくらいの目標を目指してこの施策を積み上げると行きましたというような説明でないと、結局できることしかしませんでしたというような、今までのTDM以来の、ずっと行政が失敗してきているような施策の積み上げだけれども、全然目標に届いていないというようなことにならないかなというのが怖かったので、こういう分析をされるということは、多分そういう目標値を作りたいという解釈でいいんですね？

事務局

- ・はい。

委員

- ・一番混む時期がありますよね。週末の夕方とか。あのときに何台くらい減らさなければいけないのかというようなイメージを共有しておかないと、北のところのフリンジパーキングでどれくらい受け持とうとか、そういう戦略的なことが要るなという感じです。だから、フィージビリティと目標値、両方合わせながら議論していく必要があるかなと思いましたので、2番で書かれているということは、多分そのあたりの目標値を何とか出したいというような一端かなと読んだのですが。

事務局

- ・はい。

委員

- ・何台減らすというのは結構難しいんですね。目標を出すのは、何台というのはなかなか言い難いのですが、大体何台ぐらい減らさなければいけないというような目標はあったほうがいいという気がします。

委員

- ・資料の補足をさせていただきます。PTの調査の中で出てくるものというのは、今ですと市域1つぐらいになっているのですが、それを6か7ぐらいに分けられます。もう少し詳細にやれば郵便番号あたりで出るらしいのですが、あまりにも細分化すると誤差が大きくなるので、その辺は考慮させていただくのですが、現状がどのような形になっているかというのは定量的に把握することが重要だろうということで、1つではなくて、どこからどこへというものの規模感をつかみたいというのが1つです。
- ・実際は、これだけでは不足をしていると認識しておりまして、川西中央地区でそれぞれ整備されます施設について、以前はどのような形で、施設が整備されてどうか、さらに交通の施策を各事業者さんが取ったときにどうなるかという、もう少しさらに詳細なものは補足でアンケート調査のような形で見ていって、それでこういう施策を打つと多分これぐらいの例えば乗り換えの率になるとか、そういうものを把握していけたらなと思って2段階の調査のうちの1つとしてPTについてはもう少し詳細なものを見てみたいということで書かせていただいています。

委員

- ・ほかはどうでしょうか。ざっとみれば駐車場は余っていますねという話ですね。

委員

- ・特にショッピングセンターに付設されています施設については無料ということで、ほぼ満車なのですが、一時貸しの有料施設については、基本的にはこれまでの調査で行くと半分ぐらいの稼働です。無償の施設と有償の施設、空いているからこちらが空いていますよということだけで本当にそこが使われるかどうかは別として、少なくともトータルのキャパとしては今の施設で足りているのではないかというのがこれまでの調査の中では出ています。

委員

- ・本当はもう少し時間帯とか見なければいけないのですが、それはさておき、車を止めるスペースの供給量から言うと大体足りるそうなので、新たに作るとか作らないという話はない。どう活用していくかという議論をしなければいけない。

委員

- ・ですから、今ショッピングセンター内の付設の駐車場であればほぼ満車なので、そこに止めたま

ま、川西中央地区で何かイベントをやるからそちらへ移動してもらおうと言った場合、新たに買い物で来る方の駐車をするスペースがなくなるので、逆に言うと中央北地区のほうをFRINGE駐車の場のような形で活用できると、駅周辺の施設に負荷を持たずにやれるのかなというようなところのベースとして状況を整理させていただきました。

委員

- ・お互いの、中心部と中央北地区の両方にとってFRINGEになるような形で止められたら一番いいですね。一応同じような形になっている。
- ・ほかはないようでしたら、2番目に行きましょうか。

### 交通部会における取り組み案

事務局

- ・資料説明（資料3）

委員

- ・それでは、質問等をお願いします。

委員

- ・現状、JRさんと阪急電鉄は既にレンタサイクルをおやりになっておられて、現地を去年、少しヒアリングをさせてもらったこともあるのですが、実態としては、能勢電、阪急、あるいはJR、電車で来た人が自転車を借りて、その辺をウロウロするような実態というのはあるのかなのか、まず、どういう使い方をしているのかわかる範囲で、支障のない範囲でよろしければ教えていただければと思います。

委員

- ・前回、定期利用をお話しさせていただいたもの以上のことはよく把握していません。前回から特に人数も大きく変わっていないということでしたので、今のところ、前回お伝えした人数と同様で推移していると理解していただければと思います。

委員

- ・一つの目玉ですからね。なので、感想を言うと、駅からのレンタサイクルの話は中央北地区の整備を待つ必要はなくて、今の中心市街地のエリアで活性化していきたいという話であれば、自転車を使ってもらって、ちょっと離れたところに行ってもらったりというのは全然構わない話だと思います。準備が整い次第という話ですが、阪急さんとJRさんがされているようなレンタサイクル、あれが一体だというイメージが持てるようなものと、鉄道で来て、あとはアクセス

のことを心配しなくてもクルクルと回れば川西のまちは楽しめるというイメージがつくと、あとやりやすいんです。社会実験とかを増やしてくれという話も非常にやりやすいと思うので、そのイメージといいますか、ブランド、そういうものを作っていけるといいかなと思います。その補助金を取ってきて、施策として展開していかないと。あまり時期を待って、「はい」というような、ヨーイドンではないような感じだと思うので、できるやつを適宜展開していく必要があるのかなという気がします。

#### 委員

- ・自転車に関しては、昨日から姫路が「姫ちゃり」ということで、10月、11月の2カ月間の試行期間の実験でやっているニュースがありました。要は半径2kmの範囲を想定して、1日100円、自由に何カ所のポイントに置いていけますと。ただしそれはショッピングだけでなしに、姫路城を含めた観光地に拠点がある。当然川西の場合も駅前にもいろいろなスポットがあるんですね。そのスポットに行くのに、実質は道幅が狭いところなので、まさに自転車を有効活用すれば市街地をずっと回れますよという考え方はできるのではないかと考えています。それに、今言われたJRさんとか、キャパが空いているならば、その空いている中で利用形態の協定を結びながら、ショッピング以外に自由に回れて、なおかつ車の台数が減っていく、そういうものが描けないのかなという思いがしているのですが。

#### 委員

- ・何かできたらなと。バルが役に立つかわかりませんが、川西はそういったイベントもたくさんされていますし。

#### 委員

- ・1つ思ったのは、イベントとか、何か仕掛けを設けて、複数、それを自転車で回るようなものを企画して試行する。それで利用を調査するというのはいいいと思います。中央北地区ではなくてもいいと思いますが。

#### 委員

- ・それをもう少し県を越えて池田市さんとやるとか。なかなかしんどいでしょうけれど。住民にとっては一体ですものね。もう少し行ったら池田だし。そういうのは地方創生で喜んでくれる人はいないですかね。それにつけてやろうみたいに。とにかく、システムを準備していくというのは、今のある資産を使っていくというのはレンタサイクル、サイクルシェアリングというのはいいいかなと思います。

#### 委員

- ・阪急電鉄のレンタサイクルを見ていると、どうしても通勤通学というところが多いです。川西



市内で回遊性がよく言われているのですが、何を目的とした回遊性かというのが、僕は今日初めて出席させてもらってまだわかっていない部分もありますが、北部、中部、中央北地区ですか、ここで何を目玉にして回遊性を持たせるといのは、何のための回遊性なのかというのが、例えば今度オークワさんが来るからそこまで買回り品で川西能勢口周辺の商業施設からそちらまで行かせるためのものなのか、それか、資料にも出ていますが、自動車利用からレンタサイクルに変えさせる、そういう手段なのか、その辺がはっきり見えないんですね。

- ・例えば私どもでは嵐山でレンタサイクルをやっていますが、それは明らかに目的が観光です。そういうことがありますし。回遊性とか、どの協議会でもすぐ出てくる言葉なのですが、何を目的とした回遊性かというのがわからない。
- ・私も今ちょうどグランフロント大阪のほうもやっています、そこで「うめぐる」というシステムをやっているのですが、「うめぐるチャリ」というのは今まあ順調にはレンタサイクルを借りられています。もともとは観光目的で借りられると思っていたのですが、実際、蓋を開けてみると、土日は外国人の方とか観光目的で借りられている方が多いのですが、それ以外、平日は、例えば梅田から大阪市役所に行くとか、そういうビジネス利用がほとんどなんです。ですから、最初に思っていた目的と全然変わってきてしまっているという、そういう実態があります。

#### 委員

- ・ありがとうございます。そういうことだと思うんですね。多分中央北地区がまだ全然動いていないからあれですが、あそこにいるんなイベントが展開されていこうと思います。わざわざオークワには多分人は行かないでしょう。普通に手に入るものは、そういう意味では、オークワさんにそれほど魅力があるとは僕は思えないし、魅力をつけるとしたらソフト施策しかないんだろうと思うんです。もしくは、あるかどうかかわからないですが、北のほうに住んでいる人たちが絹延橋で降りて歩くときはうとうしいなと思うので、川西能勢口まで出てきて、ちょっと中央北地区まで行こうと思ったときに自転車で行ったほうが便利だと。路線バスより便利というので行ってくれる人がいるかもしれないですが、そんな形の利用かなと思います。
- ・さっき池田という話をしましたが、ひいき目でも何でもなく、フラットに見たときに、歴史的な資産というのは池田のほうが多勝っているかなという感じがするので、そういうところと連携してやっていくことによって、今ほとんど通勤通学しかない。非常にもったいないですよ。逆利用がなければレンタサイクルなんてやっても意味がないので、逆利用をどう作っていくのかということを考えていくと、先ほど申し上げたようなイベント系の逆利用なのか、それとも日常買回り品かもしれませんが、嫌々ながら使うような逆利用なのか、それとも他市と連携しながら、休日になるでしょうけれども、観光という形での逆利用ということを作っていくしかないのかなという気はします。

#### 委員

- ・それと、先ほどからフリンジパーキングという言葉がよく出ているのですが、フリンジパーキン

グも我々はやっていて、それを使っていただくために特典をつけたりしたのですが、実証実験を去年いたしまして、フリンジパーキングはさっぱりでしたね。

#### 委員

- ・基本はそうなんですよ。今までそうなので、何とかという感じなんですよ。その考え方としては、多分今年度、来年度、整理されると思うのですが、実際使えそうな駐車場がどこにどれだけあるのかというのを調査して精査していかないといけないし、今まで日本人の車を使っている慣習の中にフリンジパーキングというのはあり得ないので、それをどうやって意識づけていくか。こちらを使ったほうが得だというのがないと、車では動かないです。そうじゃないと、車に乗ったまま、真ん中に渋滞して突っ込んでいくという行動にならざるを得ないので、そのあたりの可能性を川西で一度考えてみましょう。

#### 事務局

- ・事務局から2点ほど、今の回遊性の目的について補足説明させていただきたいと思います。資料3の一番後ろの図面を見ていただきたいのですが、その中で、緑色の丸で「公園」と表示させていただいている部分がございます。ここにつきましては大きさ2haの中央公園を建設します。その東側にせせらぎ遊歩道といまして、歩行者専用道路を作る予定でございます。この2つの施設は中央北のメイン、シンボリックな役割を担う施設となります。
- ・施工時期につきましては、平成27年、28年の2カ年の整備を予定しておりまして、完成までに、今まで公園といまして市のほうで勝手に計画して整備させていただいて、市民の方に使ってくださいという形が一般的だったのですが、この中央公園せせらぎ遊歩道につきましてはPFI事業のまちづくりコーディネイト業務の中で、市民参加という取り組みをさせていただいています。完成前に、今の思いなのですが、市民さんによる管理団体的な醸成を行われたらなという思いがございます。三田市に有馬富士公園があるのですが、市民の方がいろいろ企画させていただいて、市民の方が判断して自由に使っていただくということで、できましたらここにイベント的なものがないかなというようなことを考えてございます。
- ・あと、各施設の予定時期をご説明させていただきます。今言いました中央公園につきましては、29年4月から供用開始の予定をしております。一番最初にできあがるのが中央公園の南側に、地図でいまして、ここにつきましては共同住宅を予定されていまして、202戸の共同住宅でございまして、住まれる時期が28年4月からになる予定でございます。オレンジ色で「複」と書いてあるのが市が行います複合型の公共施設でございます。これにつきましては、30年4月から供用開始の予定でございます。先ほどから出ています「商」という大型商業施設ですが、これにつきましては定期借地権ということで、地区内の権利者さんと事業者さんが契約されて行く民間事業でございます。先月8月に仮契約を結ばれて、あくまで予定でございますが、2年後に完成するとしたら28年10月という予定でございます。紫色の「医」、これは市が医療施設を誘致するのですが、この時期については現在未定でございます。説明は以上でござ

ざいます。

委員

- ・そのような形ででき上がっていくと。

委員

- ・資料3の5ページで、「事業者による」という言葉が出てくるのですが、これはこういった事業者を指すのか教えていただきたいのですが。

委員

- ・こちらに書いています事業者さんは、先ほど事務局さんから説明がありました例えば商業施設の事業者さん、それから複合施設という、こちらが最終的には管理。ですから、今PFIでこちらの募集をしているそうなので、最終的には契約で管理される事業者さん、それぞれの事業者さんでどういう施策を打って有効なのかなという意味で書かせていただいています。ですから、鉄道事業者さん、もしくはバス事業者さんというつもりではなくて、この施設に立地する施設というつもりでここでは書かせていただいております。

委員

- ・こういうことをやってよねということは申し入れることは可能ですか。

委員

- ・はい。ですから、自転車のシェアリングであれば、今されている事業者さんが中心になるという形になるかと思えます。新たに出てきたところの施設で、それぞれ何も無いときではなくて、それプラスアルファ、どういう施策を考えていくかということについての協議をしていくという意味で、そういった方々に参画していただきたいということです。

事務局

- ・今に関連したことですが、市のほうで低炭素まちづくり計画を実現させるためにエコまち運用基準を定めております。これにつきましては、昨年度、手続き条例を定めていまして、エコまち運用基準に基づいて、地区内で建築される事業者さんにつきましては低炭素のまちづくりについて協議をしてくださいというテーブルを設けております。その中で、今言われた低炭素の項目について、事業者さんと市のほうで協議を行う場がございますので、そういった形で進めていきたいと考えております。

委員

- ・今の協議の中で、基準として設けられておりますのは、建築物や緑だけで、交通に関してはまだ

記載がないんですね。なので、事業者さんに交通の分野でも、例えば通常であればこういう分担率のところについて、何かインセンティブを出すことによって車の分担率を少しでも下げられるようなというようなことをこういった社会実験の中で、もしくは事前に施設を使われる方々のアンケートの中でこういったものが有効そうかというのを見出して、冒頭にありましたこれぐらいの率であれば、こういうことをすると転換できるのかなというようなことを把握できるといいなと思ってございます。

委員

- ・資料3の3ページ、自転車シェアリングのところの検討に「2回転」とあるのですが、この書き方ですが、自宅から川西能勢口へと言えば、自転車に乗って駅まで行くということですね。その次の川西能勢口駅から勤務先へというのは、またそこで次に降りた駅で自転車を借りていくということですか。

委員

- ・去年の部会の中で、レンタサイクルの主な使われ方が、能勢口へ来た方が勤務先へという利用が主というような説明があったものですから、現在1回転というところで、能勢口から勤務先へという書き方、夕方については勤務先から能勢口へ、この1回転が主だろうと。そういったところに対して、2回転というのは、逆に言うと、能勢口へ来たから使われる方以外の使い方ということで、1つはこういう方法がないのかなということで例示をさせていただいています。

委員

- ・1台について、朝と晩で2人の人が？

委員

- ・違う時間帯の使用目的であれば2回転、同じもので倍の稼働ができるのではないかという意味でこういった組み合わせをしたらどうだろうかということで例示させていただいています。

委員

- ・Aさんが、朝、自宅から川西能勢口駅へ行って、そこで降りて返しますよね。どこから川西能勢口駅まで来たBさんという人がその自転車を借りて勤務先へということですね。

委員

- ・そうです。ですから、先ほど回遊性ということがあったときには、従来の使い方、駅へ来てから勤務先へという時間帯の方と一緒にになってしまう。ただし、曜日が平日なのか休日なのかということで違ってくるので、今のレンタサイクルの契約状況が平日だけなのか、平日、休日を含めて月当たりなのかにもよるかと思いますが、その時間帯だけでなく、曜日の違うものを組み合わせ

ることが可能であれば、従来の施設の回転率を高めるようなことになるのかなと。

委員

- ・こういうものを周知していくやり方というのは別に部会があるのですか。何かプロモーションとかしていく部会とか。

委員

- ・それも含めて、今立ち上げたところです。恐らく、この回遊性のご質問もそうだし、このまま何も戦略がなければ、レンタサイクルが実際あっても、能動的に乗ろうという人はいないわけですし、ほうっておいたら車を利用すると思います。どれだけフリンジ駐車場だと言っても、おっしゃるように、どんどん駅前に集中すると考えられます。じゃあどういう戦略を打って、魅力を出して、例えばさっき説明したように、中央公園というのは誰がいつ来ても何かやっているというところを実は一方でソフトの面では目指して活動をやっているのですが、そういうソース、そういうものが中活の市民生活マターでもいろいろな、こんな魅力もあるでみたいなものを集めて、それをどう発信して、おっしゃるように材料を揃えて、その次にどうプロモーションしていくかという、それはステップバイステップで、この中で取り組んでいって、必要に応じてステークホルダーを巻き込めると。そのすべてのスタートという位置づけかなと思っています。

委員

- ・5ページに、長いスパンで物事を書いてあるのですが、社会実験をする前に必ず川西中央北地区で行われるイベント時にアンケートで「こういうようなことをしたら使いますか」というような裏付けを取って、可能性が高そうなものを社会実験に乗せていくというようなことをしないと、社会実験をやるだけやって、効果が得られなければ意味がないので、使われる方に直接聞き取りをしながら、方向を見直していく。そのときに少しでもプロモーションの宣伝ではないですが、していけば、もしできるのならいいなと。
- ・もう1つは、去年の交通部会のときにもあったのですが、地形的に下ってくるのはいいのですが、実際上っていくのはどうするのか。もしくは買い物に来たときに荷物がありますが、本当に普通の自転車でいいのかというようなことも委員の方から出ていたと思うので、今回ここで書かせていただいているのは、東日本の被害があってから需要も伸びたアシスト自転車、そういったもの、通常の自転車だけでなく、アシスト自転車のときに地形的なもの、もしくは荷物があったときにどうかというようなものを確認しながら社会実験をやれば、そういったものでしたいなと。普通の自転車ではなくですね。というようなことを考えています。
- ・ですから、アンケートで、普通の自転車では駄目で、アシスト自転車でも坂が全然上れないから駄目という話であればまた方向を変えなければいけないかと思うのですが、普通の自転車以外にもそういったものも考慮したらどうかなと思っています。

#### 委員

- ・昔、卒論でやった研究なのですが、能勢電鉄の沿線の方々にアンケートがあって、それでメールマガジンに登録してもいいよという方に返信をもらって、そういった方々にメールマガジンを作って、うちの学生が毎週月曜日に3通のメールを送るということをやったんです。その3通のメールは川西の中心市街地にこんなことがあります、あんなことがありますというような情報を送るだけなんです。そうすることによって、事後アンケートでやると、それを受け取った方の能勢電鉄の利用頻度が1.3倍増えた。そんな話です。能勢電鉄のサービスレベルはその間に変わっているわけではなく、単に中心市街地でこんなことがありますよという情報を彼女が集めてきて発信するだけで人々の心というのは変わるんですよ。
- ・なので、今問題なのは、その情報を集めるような組織がないというところが非常に問題で、それが全く一元化されていない。そういうこともあって、今日は中心市街地の活性化をしていただいている担当課からも来ていただいていますし、というようなことなんだろうと思うので、多分市民の方々に、どうも川西のまちの真ん中に行ったら何か楽しいことをやっているというような印象と、具体的なこれを行っている、あれを行っているというようなものの情報が伝わったときに初めて、行こうかなと。行こうかなと思ったときに、どうやって行こうかなと思ったときに、先ほど申し上げたようなFRINGEであったり、レンタサイクルであったり、そういう手段があるよねというようなところだと思うので、我々が実際にそういうところは多分両方しなければいけないのだと思うんです。いみじくもおっしゃっていただいたように、そういう情報をとりまとめようというところがあるんですかと言われたときに、「ないです」と答えてしまうと意味がないので、それを今から立ち上げていかなければいけないという気はします。誰かがしなければいけないだろうと。それは中央北地区が全部するのではなくて、市役所の中のどこかの部署で担当してやっていくべき事項なのではないか。そのための卒論の一番の出口は、こういうことはスルッとKANSAIの人たちが情報を持っておられますよね。それを流したらいいんだという非常に乱暴な結論にしたんですね。そういうふうな着地側の情報を持っているような人が強いので、そういう情報がどこかで集まってほしいなという気がします。本当に彼女はほとんど川西の人間かと思うぐらい川西に来てやっていたので、それぐらい大変なことはよくわかるのですが、そういう生きた情報をどうやって集めるのかというのは考えなければいけないと思います。
- ・ほかにどうでしょうか。
- ・今年度は、地域特性と定量把握をするということですね。来年度に向けて社会実験の企画をにらみながら定量的な把握をしてということをやっていくということですね。
- ・4番目のバス走行環境の改善、これはなかなかしんどいですね。

#### 委員

- ・ページ割も一番最後です。

委員

- ・これは個人的にはやったらいいと思いますが、なかなかしんどいなと。

委員

- ・ただ、協議会のほうに上げた瞬間になかなか話が進まないのかなと。部会までは話題には上げておいて。

委員

- ・現実的には、6.6 と示してありますが、実質は火打 1 丁目の交差点から萩原台に向かった 2km 弱の中でガードマンを置いて、自主規制ですので、強制規制ではないですから、事実上、実は私もこの道を通りながら、バスの前であろうとバスの左側であろうと、実際には自主規制ですから、要は役立っていないというのが事実です。
- ・根本から言うと、他市のところでは強制的に時間帯をおいてやっておられるところもありますが、実際のバス環境ことどこまで踏み込むかという点については課題が多いのではないかと思います。

委員

- ・専用、カッコになっていますよね。専用区間になっていくとあれですけど、優先なので。

委員

- ・1 ついいですか。「2 . 交通部会検討ロードマップ」で、平成 26 年度は地域特性と定量把握で、3.に中央北地区来街者へ交通手段等利用アンケートを取るわけですが、今の状態は何もできていない状態。これを、要はどういう手段を使ってアンケートを取っていくのかなというのが少し疑問なのですが。

事務局

- ・11 月の川西まつり、そのときにアンケートを取りたいと考えています。

委員

- ・逆に川西まつりのほうがいいのか、もしくは前週の音灯り、日中からイベントをされると聞いていますので、どちらがいいのか。もしくは両方取れれば取ったほうがいいのかということところをアドバイスいただければと思います。実際に地区へ来た方に今回はどういう交通手段なのか、もしくは将来的にはこういう施設ができるときにどう使うのか、その場合はどういう手段で使うのか、そういう前と後というのを今の段階で想定するものをさせていただきたいと思います。

委員

- ・川西まつりではシャトルバスは走りますか。

委員

- ・シャトルバスを出します。

委員

- ・別の考え方で、音灯りではシャトルバスは出ないですが、川西まつりはシャトルバスが出るんです。逆に言うと、そういった利用も含めた考え方で来街者アンケートを取るのがいいのかという判断をしていただけると。

委員

- ・去年は中止だった。

委員

- ・そのあたりはどうでしょう。両方取るべきか。

委員

- ・両方取ればいいのではないかと思います。逆に音灯りの場合はキャンドルサービスといいますが、ペットボトルを半分切ったものに水を入れてろうそくを焚いてということがあるので、要は荷物があるんですね。荷物を持ってこないといけないという状況があるので、かえって車を使われる方も多くて、指標として有効かどうかというのはあれですが、どうせやるなら両方やればいいのではないかと思います。

委員

- ・両方という話が出ていますが。

委員

- ・聞き方にもなるのですが、周辺の駐車場があまりない状態なんです。来街者はかなりたくさん来られます。駐輪場も当然設けますし、シャトルバスも出します。聞き方ですが、「何で来られましたか」と聞くと駄目だと思うんです。バスで来ました、チャリで来ました。ですから、全体を把握するに当たって、ここの土地まで来ました。実際にいろいろな施設ができようとしています。そのときにあなたなら何で来ますかというのをしっかり位置づけないと無駄なアンケートになるかなという思いがします。その点だけ気をつけていただければと思います。そういう意味では両方取っても問題ないかなと思います。



委員

- ・どれぐらいの分量を聞くのですか。分量的には、交通手段だけですか。

委員

- ・交通手段と、逆に言うと施設が、商業施設とかできますので、使うか、使わないか。使う場合は頻度がどれぐらいかということがもし聞けるのであれば、今がどうで、できたらどうだというようなものも聞けたら一番いいと。施設ができて、実際に供用開始して、安定時になったときにもう1度同じようなことを聞いて、今度はそのときにはそれプラス、エコポイントだとか、次のソフト施策があるとどうかということをそのときには聞いたらどうか。ですから、アンケートもだんだんステップを踏んだようなアンケートにしたいなと。
- ・ですから、1回目はどちらかという交通施策というよりも、集約型で、都市機能を新たに作ったことによってどのように変わっているか、もしくは変わりそうかというところを押さえて、ほかの交通施策との明確な分けといたしますか、そこを把握できればなと思っています。

委員

- ・今の時点では大体の感覚のはずなので、大体イメージですね。

委員

- ・そうですね。どういったものが有効そうかという当たりをつけるようなことを事前にアンケートの中で見出していききたいと。

委員

- ・今の話ですが、むしろ我々の将来イメージしている姿というのは、バス、電車で来てもらって、歩いて回遊してよ。自転車に乗ってぶらぶらしてくださいよということですよ。なので、現在、要は中央北地区の中央体育館の横で会場になるからアンケートを取ろうとしているんですけども、自宅から能勢口まで何で来て、あるいは能勢口以外の経由駅があれば、どこで降りて、会場まで何で来たということをしっかりまず押さえて初めて今の来訪する交通行動パターンがわかるから。それを把握して初めて冒頭申し上げた方向に、どのように力を入れて持っていかなければいけないかということを分析していくということが個人的には一番大きな目的になっているのかなと思うんです。
- ・だから、確かに将来をイメージさせることも必要かもわからないけれど、施設も何も無いのにイメージできないのではないかなと思います。我々は事業を手掛けていますから、図面も見ているし、公園もワークショップをやって大体のことがわかってきたなということが意識レベルとしてありますが、単に祭りに来た人たちはそんなことは多分知らないで、ちょっとそこは将来をイメージさせるのは慎重にやったほうが、それこそ無駄になってしまうのではないかという気がします。むしろそのときに来た交通手段は何だったかということをしっかり分析できるレベルまで聞ければいいのかな。そこが一義的な目的かなと思います。

委員

- ・それは言えますね。それは言った上で、そこまで要るかどうかですね。
- ・これはヒアリングですか。

委員

- ・今は対面のアンケートという形で、何人が繰り出してやろうというつもりでいます。

委員

- ・まあ2、3問ですよ。

委員

- ・あまり大きくすると。

委員

- ・2問かな。属性は見た感じで、男性、女性、年齢で大雑把に5段階ぐらい。

委員

- ・交通手段と、あと、どこからというのは聞きたいなど。

委員

- ・何も情報がなかったら、みんな車で来ますかね。中央北地区だったら、車と言いますかね。

委員

- ・皆さん、キャバをご存じなので、車ということではないと思います。川西まつりの場合はシャトルバスを出しますが、あれの有効利用は高い。乗ってしまえば、だから当然、市内、市外を問わず、多くの方が来られます。

委員

- ・中央北地区が整備されたときに、整備されたら皆さん何で来ますかと聞かれたら、「車」とみんな言うかなと。

委員

- ・商業施設に備え付けの駐車場の台数が何台あるか知りませんが、駐車設備の整備状況によって変わってくると思います。

委員

- ・最初は直感的に皆さんどう思うか。人間は賢くないので、そこにできたら何で行こうかなと思っただら、面倒臭い、車で行こうみたいな感じになられると嫌だなという。

委員

- ・私も公共の人間ですが、やっぱり車ですよ。

委員

- ・なぜこんなことを言っているかという、今回のアンケートで聞けば、ファーストインプレッションでこんなことになってしまっているという状況がまずいよということ言うために何か出すというのはあるかなと思います。あまり詳しく情報は言えないので。と思ったのですが。なくてもいいのですが。当然だと言えば当然なのですが。

委員

- ・下手すると、電気自動車にすればもうおしまいレベルにならないようにだけはしたいなと。

委員

- ・自転車のことで、中心市街地活性化協議会が来年度、27年度、中活の基本計画の策定の変更で今協議会を重ねています。その中で、8月に開催された意見の中で、80haの基本構想計画の中で、要はレンタサイクルの件も実は活用ということで挙げているのですが、委員の中から1点、これは単独、要は中央北地区内で言うことはいいんだけど、駅前を踏まえて、全体の自転車が通れるという、要は整備も含めてどう考えているんだという意見があったということだけお知らせします。要は単なるここだけの活用だけじゃなしに、そういったものが含まれて、全体で駅前からの利用が増えるのではないか。そのあたりは行政の中でどう考えているのかと我々も質問を受けて、それは今後の話ですと言いました。取り急ぎご報告します。

委員

- ・中央北地区の中だけだったら自転車の走行はかなりいいと思うのですが。

委員

- ・いいと思います。

委員

- ・そのフリンジであったり、その周辺というのは、皆さんよくご存じのとおり大変ですよ。その辺の自転車のネットワーク計画というのも、市役所の中で担当はどこかされているのですか。しようかという話も。……ないそうですね。今自転車はすごく国交省は好きですけどね。

委員

- ・自転車事故が増えて、人身事故が増えていますから、よほど環境整備をきちんとなしないと、ただ単に走らせれば良いという話ではないです。

委員

- ・そういう意味でも、ぜひ横の連携をお願いしたいと思います。最初に線が引いてある、公共交通基本計画もそうですが、委員の1人ですが、そこ中ではないですね、中央北地区。先々週に委員会があって話をしたのですが、中央北地区のやつは本当に腫れものを触るような感じで、ポンと置いてあるんです。ここの地域の開発というのは考えてどうしようというのは全然議論がなく、そこだけちょっと置いてある。そこもぜひこういうことを考えているんだとかというような情報交換をやってほしいと思います。
- ・アンケートの件ですが、現状把握はしておく。それはどこから来たのかとか、何で来たのかというのを、それは最低限すると。プラスアルファできるのであれば、ここに整備ができたときにどういう手段で来るかというのは、ファーストインプレッションでいいので、聞いておくというのもあっていいかもしれないですね。そのときにはあまり詳しい情報は要らないとは思いますが。

委員

- ・ご報告ですが、中心市街地活性化協議会で11月19日の平日と23日の日曜日、通行量調査、毎年やっている繰り返しの中で、昨年が基本計画の通行量、1日当たりが6万5000。結局、計画どおり上がっているという数字が出ている中で、11月19日の平日と23日の両日に通行量の調査をやります。それに合わせて、今回、前回から中央北地区に向けてということで、市役所前のポケットパークと、それから県道川西篠山線の2カ所にポイントを増やしました。その増やした中で、今回その2カ所については自転車も、今までは人だけだったのですが、自転車も1回、現状として自転車が何台、生活で通っておられるのかということも調査に入れようということで追加しましたので、ご報告させていただきます。

委員

- ・ありがとうございます。ぜひまた報告してください。
- ・ほかにどうでしょうか。

委員

- ・5ページのロードマップですが、これも今後、コンサルさんと協議していかないといけないと思っているのが、書いていないのですが、今先生がおっしゃったように、国交省とか環境省が自転車のまちづくりで本腰を入れ始めましたよね。先ほど「うめぐる」の話もありましたし、奈良で

も一生懸命やっていますし、岡山とか、あるいは東京都内で何とか区とか、かなり幅広く実験を始めているなという情報が、普通に新聞を読んでいても入ってきます。そういう先進というか、取り組んでいる事例をピックアップして、川西と属性がよく似たようなところがあるかどうかというのはまた別なのですが、必ずやっているところは問題点が出てきているので、そこをうまく改善するような作戦を立てないと、ちょっと補助も取りにくいのではないかなと。できればそれを逆手に取って、何か新しい取り組みということを国のほうに訴えていければなとも思いますし、書いていないのですが、事例のピックアップとか、できれば調査というのは加えていけたらいいなと思っています。また情報があれば皆さんから教えていただきたいですし、よろしくお願ひしいと思います。

委員

- ・ 商業者との連携というのはありましたか。サイクルシェアリングによって商業者と連携してやろうみたいな。

委員

- ・ お店の先を、乗り捨てが多いので、借りているというのは書いてあった記憶がありますが。

委員

- ・ 何を言いたいかというと、何のために交通を研究しているかということ、人の幸せのためにやっているんですよね。そう考えたら、確かに通勤とか通学というのはすごく使われるんです、量としては。でも、全然ハッピーではないですよね。せいぜい不快な程度が減るぐらいの話ということなのですが、今回、中央北地区で議論しようとしているのは、ハッピーのために使ってもらふことのトリップを考えているわけですね、中活としては。そう考えたときに、どういう状態がハッピーかなと思うと、確かにお店で何か特典があるというのはハッピーのうちの1つなのですが、誰と行くかとかとかね。2人で行ったほうが、恋人と2人で行くとかというのが僕の人生の中で一番ハッピーだった時期だったなと思うし、この間もうちの嫁と話をしていたら、うちの母親と一緒に出るようになったらしいです。そうしたら、そこそこハッピーみたいですね、話を聞くと。なので、やはりこういう2人で行くような行動をいかに増やしていくかというのを真面目に考えたほうがいいのではないかなというような、量だけの交通計画を今までやってきましたが、それだけでなく、誰と一緒に行くのかとか、質のことも考えなければいけないなと思ったときに、さっき言っていた商業施設の連携といったときには、例えば2人で一緒に来てもらったら何%引きにしますよ。それでしかもサイクルシェアリングだったらさらに何%というような、目的地のほうで得点をもらえるような形で、しかも何人かで一緒に行動することによってさらにハッピーが増えていくような感じのやつができていくと、この世の中のハッピーが増えるなというような気がします。
- ・ なので、どうしても事業者側からの提案がすごく多いんですよね。コミュニティサイクルもそう

ですが、昔々、僕が助手のころに近畿整備局がコミュニティサイクルで、日本に先駆けてやりましたが、あれは駐輪場に止まる自転車の配置がすごく偏るので、それを直すのが大変だったかというような、とてもネガティブな情報ばかり入ってしまって、しばらくポツシャになっちゃったんです。イメージはすごくよかったです。それは事業者の判断に行くと、その偏った自転車を誰が直すのとか、そういう話になってしまって、コストがかかるねというので、議論して、駄目ですねみたいな話になってしまう。そういう事業者との連携をうまいことやっていくような形でのサイクルシェアリングというのも個人的には賛成ですね。公共交通を応援しているのは、そこだけなんです。一緒に行動できるから公共交通を応援しています。

委員

- ・これは何回か先生と話をしたかもわかりませんが、自転車の種類も、電動アシスト付みたいな話もありましたが、2人乗りの自転車であるとか、デザインを工夫するとか、そういう話にもつながっていくんです。

委員

- ・今の段階ではキワモノですが、ありだと思っんです、個人的には。だから、阪急バスさんなんかでも、環境定期券というのがあるじゃないですか。あれはすごくいい発想だと思っんです。お父さんが日ごろ通勤に使っているような定期券が、週末に家族で一緒に行ったら安くなると言ったら、これ、みんなで行きましょうという話になりますから、ハッピーな制度だと思っのですが、なかなか活用されないですよね。もう1度ちゃんと命を吹き込むようなことをしなければいけないかなという気がします。
- ・ほかにどうでしょうか。
- ・今年度は、定量的な把握に努めつつ、先をにらみつつ、フィージビリティを高めていこうというような方針で進めていきたいと思っます。
- ・それでは、議事を事務局にお返しいたします。

## 5. 閉会

以上